

甲斐市教育委員会第11回定例会議事録

- 1 日 時 令和6年2月22日(木)午後1時30分
- 2 場 所 甲斐市役所 本館3階 大会議室
- 3 開 会 午後1時30分
- 4 出席者 【教育長】高鳥悟教育長
【委 員】中込正久職務代理者 米山祐希委員
金子初男委員
【説明員】名取藤吾教育部長 宮本裕教育総務課長
樋川和之学校教育課長 高須秀樹生涯学習文化課長
小松利也スポーツ振興課長 保坂俊和図書館長
金丸徹学校教育指導監
- 5 欠席者 小林啓子委員
- 6 傍聴人 なし
- 7 事務局 小田切英規教育総務係長 内田優教育総務係員
- 8 議事録署名委員の指名 C委員 A委員
- 9 前回議事録の承認 令和5年度 第10回定例会議事録 「承認」
- 10 教育長からの報告
- 11 その他
 - (1) 令和5年度末及び令和6年度始め教育委員会関係の予定について
 - (2) 令和5年度学校評価アンケートの結果について
 - (3) 3月の行事予定について
- 12 閉 会 午後2時15分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○あいさつ

教育長 改めましてこんにちは。

委員の皆様には、2月6日に開催されました第2回甲斐市総合教育会議に出席いただき、誠にありがとうございました。この中で頂戴したご意見等につきましては、市長部局と共有するとともに、各担当で整理する中で、事業の推進に向け、参考にさせていただきたいと思ひます。

さて、市立小中学校の卒業式につきましては、来月の11日に中学校、19日に小学校で執り行われますが、新型コロナウイルスの感染症の位置づけが5類へと移行して、最初の卒業式となります。前回の定例教育委員会において、本市の対応について担当から説明させていただきましたが、学校では、引き続き感染対策を講じながら学校運営を行っていることを考慮し、時間短縮を図る中での実施となりますので、ご理解をお願いいたします。

なお、委員の皆様には、所定の小中学校の卒業式にご臨席をお願い申し上げますとともに、思い出が詰まった学び舎を巣立ちゆく卒業生の晴れの門出と希望に満ちた前途を祝福していただきたいと思います。

本年度も残すところ1か月余りとなり、各課においては、本年度の総括と来年度に向けての準備の時期を迎えておりまして、27日からは2月定例議会が開会し、新年度予算の審議も行っていただきます。

委員の皆様には、引き続き、教育行政及び創甲斐教育の推進にご支援・ご指導を賜りますようお願いいたします。あいさつとさせていただきます。

○議事録署名委員の指名

教育長 議事録署名委員を指名します。C委員、A委員を指名します。よろしくお願ひいたします。

○前回議事録の承認

教育長 第 10 回教育委員会定例会議事録に異議のある方はいらっしゃいますか。
一 同 異議なし。
教育長 異議がないようですので、前回の議事録は承認されました。会議終了後に、B 委員、C 委員に署名をいただきます。よろしくお願いいたします。

○教育長報告

教育長 2 月の諸報告につきまして、主なものをご報告いたします。
6 日午後、今年度 2 回目の総合教育会議が開催され、教育委員の皆様とともに出席し、市長と市政及び教育行政について協議を行いました。
8 日午前、甲斐市通学路安全推進会議が行われ、関係機関の皆様にご出席いただき、本年度の点検結果に基づく安全対策について協議をいただきました。
午後には、3 年に 1 度開催されます甲斐市戦没者慰霊祭に出席し、ご遺族の皆様とともに戦没者の方々のご冥福をお祈りいたしました。
13 日午後、甲斐市 P T A 連絡協議会から提出されておりました要望書について、先月の定例会でご協議いただきました内容の回答を行いました。
以上の報告とさせていただきます。

○その他

(1) 令和 5 年度末及び令和 6 年度始め教育委員会関係の予定について

事務局 (資料説明)
委 員 11 日、19 日は中学校、小学校それぞれの卒業式ですが、教育委員の具体的な割り振りについては、どのようになりますでしょうか。
事務局 卒業式の予定につきましては、本日の定例教育委員会終了後、皆様に割り振りの一覧表をお渡ししますので、そこでまたご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。
教育長 その他、ご意見、ご質問はございますか。
一 同 異議なし。

(2) 令和5年度学校評価アンケートの結果について

事務局
委員

(資料説明)

例えば2ページの「学校は楽しいですか。」という設問で全体的には良い傾向ですが、「楽しくない」と答えている子どもがいることについては、各学校においてもぜひ個の対応をしていただきたいと思います。

「楽しい」ということはそんなに問題になりませんし、全体的には以前とあまり変わらず、概ねは良いと思います。問題は、「楽しくない」や「できない」と答えている数パーセントの子どもがどうなのか、というところを追求してほしいと思います。全体で出てくると、埋没してしまっていますが、このようなところで、個に必要なことがありますよね。個で対応しなければならないということもあるかと思うので、「楽しくない」と答えている子については、対応してほしいと思います。

そして、子どもと教師、保護者で差がとてもありますが、私は、差があって当たり前だと思います。小学生よりも中学生の値が小さくなり、中学生よりも保護者の値が小さくなります。例えば、27ページの相関比較の「規範意識の高揚」を見ると、保護者は子どもの家での様子も含めて答えています。子どもは学校での規範意識と家庭での規範意識は違って当たり前だと思います。保護者は家での様子を見ているから、より値が小さくなるのではないかと思います。

特に、小学生と中学生で色々な値が小学生の方が良いということは、一つは徐々に学力差が出てくるからではないかと思います。学力差が出てくると「楽しくない」と思う子どもは出てきますよね。なぜか、と私も考えているのですが、小学校での勉強は具体物を扱ったり、これはなぜ?と考えさせることが多いですよね。授業もそんなに焦りません。具体物があるから、どの子どもでも分かりやすいのです。それが中学生になると、授業では具体物で追っていけないので、そうすると学力差が出てきてしまいます。中学生はゆっくり考えている時間的余裕があるのか、と思います。そこで一番問題になっていることは、子どもに考えさせるということを行うのですが、授業の量が多く、教師はその数を追いかけていかなければならないのです。そうすると、一番早いのは暗記させるという授業形態になりがちだと思います。暗記することが得意な子どもは、

良い点数を取れます。逆に言うと、暗記が得意な子どもは、普通の授業が面白くないと感じると思います。暗記が苦手な子どもは、なぜこうなるのか？がわからないまま、次の単元に入ってしまうのです。そのようなことで、学力差が出てきてしまうような感じがします。この場でお話しすることではないのかもしれませんが、今の教育の問題はそこなのです。もっと言えば、山梨では少ないですが、東京の子どもは小学校から受験することが多いので、中学校の受験ともなれば、小学生の内に先の勉強をしています。授業よりも塾で勉強していますので、また学力差が出てしまいますよね。そういうことを考えると、保護者は小学校から中学校の差、子どもの見方も違ってきて当たり前なのか、と感じています。以上です。

委員

何点かをお伺いしたいことがありますので、1点ずつお伺いさせていただきます。まず、2ページです。先ほど、委員さんもおっしゃったように、「学校は楽しいですか。」という設問に対して、特に中学生において、コロナ禍よりも減少傾向にあるのはどうしてなのかと私は思いました。先程、委員さんがおっしゃっていたように、中学生になると、学力差が出てきますので、そういった影響も当然あるかと思いますが、こういうことが一つの要因になっているのではないかという考えがありましたら、教えていただければと思います。

事務局

このことについては、子どもたちやご家庭の考え方が多様化・複雑化してきているので、学校に価値を見出せない家庭も多くなってきているということもお聞きしています。必ずしも、これが要因かということ、それだけではないような気もします。コロナ禍の生活から、以前の生活に戻ってきたので、すぐ学校が楽しくなるかということも、まだ様々な制限があります。学校が、コロナ前のように復帰するには少し時間がかかっています。当然、子どもたちは、コロナ生活が明けたから、すぐ楽しいと思うことにもタイムラグが生じると思いますので、その辺りがこのアンケート結果にも出てきているのではないか、ということが一つです。また、コロナ禍が3年ほど続いています。そうすると、例えば小学校1年生からずっとコロナの状況で過ごしてきた子たち、中学校も全く同じで、その子たちがアンケートに答えると、このような形で出てきて

しまう、ということも感じております。必ずしも私が話したことが全てだとは思いませんが、そのようなことは、大きく影響しているのではないかと感じております。回復するには、学校には時間がかかるのではないかと感じております。以上です。

委員

ありがとうございました。次に、感じたことで、9ページにあります英語については、小学校英語は学校現場において浸透してきたという印象を受けました。中学校については、小学校からやってきているので、初めてということではありませんが、文法という部分が出てきますので、子どもたちにとっては、英語という教科自体が、他の教科に比べて抵抗があるのではないかと感じました。

次に、16ページの全体的に家庭学習の時間が減少してきていることについては、学校として、具体的に子どもたちに習慣化していくような取り組みが必要であると感じました。

次に、18ページですが、学習の中で色々なICT機器を使い始めていますが、この設問のポイントは「学習以外で」と書いてありますので、「学習以外でどのくらい使っているか」という設問です。もちろんICTを効果的かつ創造的に使うということは大事なことです。反面、そうでない部分については、一つは読書時間との相関関係であり、読書時間は減ってきていますので、そのことも含めて、子どもたちにはデジタルデトックスのような取組も必要であると感じました。

次に、21ページの就寝時間についてですが、不登校の子どもたちについてです。例えばオークルームの実態の一つですが、昼夜逆転している子どもたちが大変多いということがあります。何時くらいに就寝するかということですが、中には、中学三年生は勉強をされていて、就寝時間が遅くなるという子どももいると思います。相関関係として、深夜0時以降に寝ている子どもで、なおかつその時間に、スマートフォンやゲームをしていると回答している子どもについては、先ほど委員さんがおっしゃるように、相関関係を見ながら、個別指導をしていくことが大事であると感じました。対応を見つけていくということの一つがアンケート材料にもなると思いました。

そして、23ページについては、地域の行事で、育成会と子どもクラ

ブが分かれているところもありますが、コロナ禍が明けて、色々な活動が戻っていく中で、先ほど課長もおっしゃいましたが、少しずつ、子どもたちに学校以外の地域での活動について、参加をしていくような、動きを作っていくということが、これから大事になってくるのではないかと思います。全体的には、プラスの方向での回答が多かったと思います。ただ「とても」と「普通に」という部分の割合が「とても」というところで減ってきて、「普通に」という部分のパーセンテージ的には少しずつ増えてきているようです。トータルで見れば、肯定的な意見が多かったと思います。

委員

私もいくつか意見があるのですが、まず、今ご説明していただいた中で、28 ページの「先生は勉強をよく教えてくれる。」という設問の保護者の回答が、「とても思う」が少ないということです。これは、去年のアンケート結果の時にも思ったのですが、「先生は勉強をよく教えてくれている。」ということが何を指しているのか、何をもって評価すればよいのか、ということが保護者として分からないこともあります。教えてくれていないということではなく、授業をしてくださるのは当たり前のことであると思っていて、それ以外の時間帯で指導して下さっているのか、子どもが教えて欲しいと聞きに行くような機会があるのかどうかというところがわかりませんでした。少し、保護者と子ども、教職員の皆さんとの間で乖離があるかと思いました。

30 ページの規則の指導の設問でも、保護者がもっと指導してほしいと思っていると伺えるというまとめでしたが、私としては、少し違う考えを持ってしまして、「あまり指導していない」・「指導していない」というよりも「わからない」という回答のほうが比率としては大きかったと思うので、学校では規則に対して、どのように指導が行われているか、ということが見えにくいのではないかと思います。

あとは、校則や規則で未だに髪型に関しての校則など、保護者としては賛成できない部分があります。未だにこういうことを言うのですね、というような校則があります。校則を守らせてほしいとあまり思わない傾向を作っているのではないかと考えたりします。

他の部分では、2 ページの「学校は楽しいですか。」という設問以外

に5ページの「学校の授業は楽しいですか。」という設問もありましたが、小学生から中学生になるに連れて「楽しい」と思っている子どもが減ってきているところがあると思いました。先程、課長からもお話をいただきましたが、何が楽しいのか、楽しくないのか、ということが、アンケートだけでは、個々の気持ちまでは分からないのですが、自分の子どもに尋ねてみたところ、中学校になると、急に堅苦しい授業になってしまうので、楽しくなくなってしまうと話していました。他の委員さんもおっしゃったように、学力や、学校でやらせなければならないことがたくさんあることで、どうしても堅苦しいというか、一生懸命教える授業になってしまう部分もあるのではないかと思います。楽しいかどうか、ということと、8・9ページの算数や外国語の授業で「とてもわかる」が中学生で少し減ってきているというところを考えると、授業が楽しいと思えるかどうかと「わかるか」ということは相関関係がありそうだと思います。学力を向上させるためや、やらなければならないことをやらせるイコール楽しくない授業である必要はないと思います。子どもによると、楽しい授業とは、先生が楽しませてくれるとか、子どもが主体的に動く授業ということではなく、先生が教科について、無駄話や雑談をすることがすごく楽しい、今日の先生の話がすごく面白かったという話をしてくれることもあります。先生ご自身が楽しく授業を行うというような考え方で、授業を進める雰囲気作りが学校で出来ていくとよいかと思いました。同じく10ページの「人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。」ということも、小学生から中学生になるに連れて値が下がっています。この辺りは、学校訪問の中でも小学校での子どもたちはとても生き生きとしていて、6年生でも活発に発言しているのですが、中学生になると、急に静かになり、先生の話の聞いているだけで時間が長いと感じる部分もあります。アンケートの結果と現状が一致していると思っています。理想としては小学生よりも中学生で上がってほしいところだと思います。

もう一つは、24ページの「将来の夢や希望を持っていますか。」という設問でも、中学生では下がっているのですが、これも理想としては上がってほしい項目かと思っていますので、主に中学校で、もっと先生

が楽しんでいるところを見せてくれると、このような項目に繋がっていくような気がします。

I C Tの部分で委員さんからもお話がありました。16 ページで、家庭学習の時間は減っているが、18 ページのスマホ・タブレット・ゲーム機等の使用時間は上がっているところで、2時間以上使っている子どもが中学生ですと、70 パーセント以上いるという結果になっていることから、I C T教育で一人一台端末があるので、そろそろ家庭学習にも積極的に活用していくとよいかと思いました。学習にタブレットを使うという時間に変換していく形で使っていけるとよいかと思いました。学校では文房具と同じ扱いと言われていると思うので、そうであれば、持ち帰りも推進していくべきかと思います。各家庭でインターネット環境に違いがあるからという事情もあるかもしれませんが、スマホ・タブレット・ゲーム機等を使っている子どもが多いということを見ると、インターネット環境ということは理由にはならないと思いますので、積極的に持ち帰りを進めて活用していただきたいと思います。以上です。

教育長

ありがとうございました。今、委員さんのご意見等を受け、各学校でも、評価の内容の分析を行い、今後に繋げていくことを考えていると思いますが、教育委員会として指導や考えがありましたらお願いしたいと思います。

事務局

様々なご意見ありがとうございます。委員の皆様が感じたことは、学校の先生方も当然感じています。教育委員会でも同じような考えを持っています。タブレットの持ち帰りに関しても、推奨しています。出来る学校から、出来る学年から、出来るクラスからということで進めていきたいと思っています。学校現場では、色々な機器や教育が入ってきてまして、それで精一杯になってしまう部分があります。授業も楽しければよい、と委員さんがおっしゃったように、楽しさには、色々な部分で楽しさがあると思います。子どもが考える楽しさというのは、小学校は45分、中学校は50分の中で何が出来るようになったとか、これが出来たからよかった、これが分かるから出来て楽しかったと感じることは、非常に大きいと思うので、よりわかる授業、魅力ある授業を作るために、様々な研修や指導等を行っていきたいと考えております。

人前で意見が言えるという部分に関しては、小学校高学年や中学生になると、恥ずかしい部分も出てきてしまいます。その中でICTを使いながら、全員の意見が見られるという部分も活用が出来てきているのではないかと思います。委員の皆様から頂いたご意見等を、校長会や様々な研修会、協議会等を通じながら、教育委員会としても学校に対し指導・助言をしていきたいと思っています。ありがとうございました。以上です。

委員

「楽しい」が「アメージング (amazing)」の楽しさなのか「インタレスティング (interesting)」の楽しさなのかという点では、私は「インタレスティング」の楽しさが大事だと思います。子どもたちは、面白い話をする先生が好きということがあるかもしれませんが、そのような気持ちを、先生方には特に持ってほしいと思います。

アンケートの設問がとても大まかなため、どのような授業形式がよいのかということで調査していかないと、私たちも意見を言いようがないです。学校が楽しいか。と言われても難しいです。もっと具体的な内容になると、対応の仕方も楽になるのではないのでしょうか。苦勞をしても、結果が残るかもしれませんが、即効力にはなりませんよね。

もう一つは、先日DXの話しをしましたが、厚い資料をいただくよりは、タブレットを1台貸し出していただき、データで見るとということも考えていただきたいと思います。紙資料を作成する労力が大変かと思っています。学校にもICTの推進と言っているのに、教育委員会でも進めていかなければいけないと思います。

事務局

ご意見ありがとうございます。その件に関しましては、現在検討しているところでもあります。市役所の中でも、スマート化やDX化が進んでいる中で、教育委員の皆様のところにも、いつも紙に資料を配るということをやっております。この点につきましては、市のDX担当と協議し、どのようなことができるか模索をしております。今のところ、どのようにするか方針は出ておりませんが、ペーパーレス化も事務の中で進めておりますので、教育委員会の会議もそのようにできればと考えております。また何か動きがありましたら、ご報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

教育長 その他、ご意見、ご質問はございますか。

一 同 異議なし。

(3) 3月の行事予定について

事務局 (資料説明)

教育長 ご意見、ご質問はございますか。

一 同 異議なし。

○閉 会

事務局 本日、本定例会に付議された議案の審議を全て終了したので本定例会
の閉会を宣する。

閉会時間 午後2時15分